

# トレイルランナー石川弘樹の 肉体を支えるコンプレッションウェア。

大自然に囲まれた登山道を走破するトレイルランナー石川弘樹。  
本場アメリカのウルトラカップを駆け抜ける彼のタフな毎日を支えているのが、  
革新的アンダーウェア“SKINS”だ。

ここ数年、日本でもトレイルランニングに親しむ人々が増えている。日本では山岳耐久レースと呼ばれてきたスポーツだが、比較的都心に近い山や林道で月に2、3回はイベントや大会が開催され、1,000人以上の参加者が詰めかけているのだ。

「実際、イベントやセミナーでも、ロードよりトレイルランをしてみたいという若い方、女性の方が非常に増えてきています。自然の中に入る憧れや、気持ちよさを求める方が多くなってきたんだと思うんです。競技としてはハードで刺激的な面もありますが、一方では、山登りと同じような感覚で、誰でも楽しめるアウトドアスポーツなんですよ」

日本各地でトレイルランニングの普及活動につとめる石川弘樹は、その広がりを実感している。だが、日本トップのトレイルランナーとして世界の山々を駆け抜ける彼のシーズ

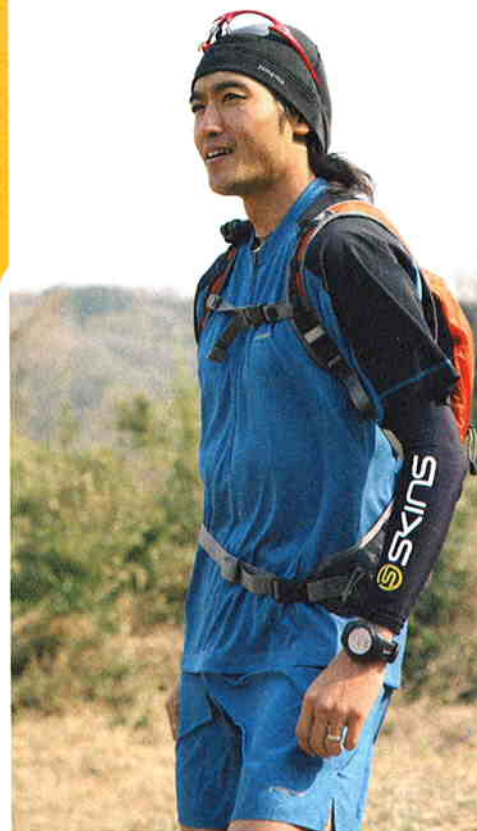
ンは、とにかくハードだ。本場アメリカのカップ戦を主戦場とする石川は、100マイル(160km)もの山岳レースを2~3週間に1度という驚異的なスパンで走り、週末も日本でのイベントでスケジュールが埋まっている。そんな石川の肉体を支える重要なアイテムが、着圧設計のSKINS「テクニカルコンプレッションアンダーウェア」だ。「着るサプリ」とさえ呼ばれるSKINSのウェアは、筋肉のポンプ作用を高めることから、アスリートの持久力・集中力を高めることで知られている。1日中着用でき、回復力をアップさせたり、疲れやコリ、むくみも軽減できることから、仕事や旅行中に愛用するユーザーも多い。

「シーズン中は絶対にケガはできないし、レース後には確実に、しかも早急に回復しないとイケない。昨年とはとてもハードなシーズンで、自分の回復力だけでは体が保てない状態だったんですね。そんなときに紹介されたのがSKINS。それまで僕は圧迫感のあるタイツが苦手だったし、せいぜい競技中のパフォーマンスを上げてくれる程度の認識しかなかった。ところがSKINSはその圧迫感がむしろ快適で、それでいて回復力が違う。レース後は階段の昇り降りさえ困難なダメージなんですけど、SKINSを着用すると階段も『あ、降りれる』みたいに、やっぱり違うんですよ」

アメリカでのシーズン中は8~9時間ものフライトを余儀なくされるが、SKINSを着用して以来、足のむくみも軽減され、移動中の回復も計れるようになった。また、ふだんのトレーニングで山に出かけるときも、石川はSKINSを着用して家を出る。そうすると車で移動し、山に着くころには、ほどよく体も温まっているのだ。

「気温の低い朝のトレーニング時も、早い段階で動きやすくなる。非常に理にかなったウェアだと思います」

春からは再びアメリカへ渡り、挑戦を続ける石川弘樹。そのタフな肉体とポジティブなメンタルは、SKINSによってますます研ぎすまされている。



## WEAR LINE UP



sport ロングスリーブトップ  
¥10,500

腕の疲れを軽減することと、姿勢を正し腹筋・背筋など、体感をバランスよくサポートするモデルです。



Hiroki Ishikawa

大学在学中まではサッカー選手として活躍。世界最高峰のアドベンチャーレース「Raid Gauloises」に参戦したことをきっかけにトレイルランを始め、2003年「montrail Ultra cup」に日本人として初参戦。総合5位の実績を残す。国内での競技普及にも尽力するトップランナー。